

8・15 札幌平和祈禱集会

「この国は、どこに行こうとしているのか」 ～改憲とキリスト者と8・15～

今橋 直さん

(日本キリスト教団札幌北部教会員・弁護士)

札幌市内の諸教会は、毎年8月15日、かつての戦争の惨禍を心に刻み、悲惨な苦しみをもたらしたわたしたちの罪を見つめ、平和を願い祈る集いを続けています。

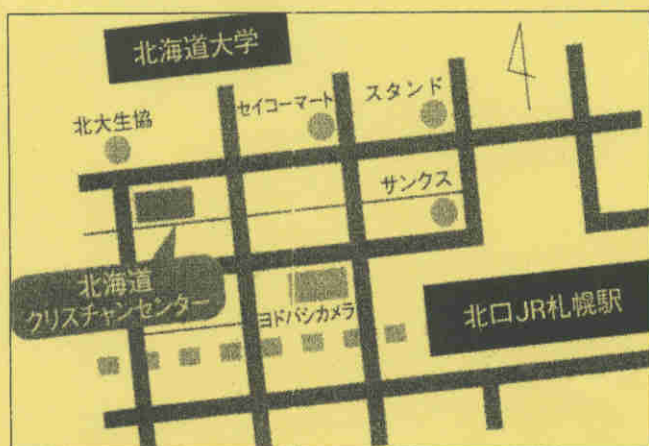
昨年末に安倍政権が登場してから、自民党を中心に憲法改正を叫ぶ声が強まり、7月の参議院選挙を経て、改憲のもくろみがいっそう具体化することが危惧されています。

今年の8・15平和祈禱集会では、若手弁護士の今橋直さん(日本キリスト教団札幌北部教会員)においでいただき、上記の題でお話いただきます。今橋さんは、北海道キリスト者平和の会や、篠路太平九条の会のメンバーでもあり、法律家の立場から自民党の憲法草案の危うさについて各地の集会でお話をしてくれました。今回はとくに、キリスト者にとって改憲が何をもたらすものか、お話をさせていただきます。

これからの時代、わたしたちのとるべき歩みについて、現憲法の原点でもある8月15日に、共に考え、平和への祈りをあわせましょう。

とき 2013年8月15日(木) 午後6時より

ところ 北海道クリスチャンセンター (北区北7条西6丁目)



集会の後、大通公園まで「平和行進」を行い、そこでカトリック教会の平和集会の出席者の方々と合流、平和への思いをわかちあいます。8時30分ごろ散会の予定。

主催 札幌キリスト教連合会信教の自由を守る委員会

共催 日本キリスト教団北海教区札幌地区 いのちと平和委員会

問合せ：久世(札幌北部教会 771-4410)